

アルミ 1950—2550ドル、下値は限定的

住友商事軽金属部課長
地金チームリーダー

神谷 基氏

アルミ相場は、4—6月が
トン2050—2550ドル、
7—9月が1950—2450
ドルを予測する。コアレージ
として年初の見通しに変更は
ない。

ファンダメンタルズを見れば
2000万トンを超える供給過
剰が続く見込みであることか
ら、減産を促す方向、すなわ
ち下げ相場となる可能性が高
いと考える。ただ、銅を中心
に他の非鉄金属が堅調で、商品
市場への余剰資金流入の継続
を勘案すると、アルミ単体の
ファンダメンタルズが反映さ
れにくい状況であるため、下
落余地は限定的だろう。

中国は成長率が鈍化する一
方、依然需要が拡大している。
供給面では減産解除と新規製
錬所の立ち上げに向けた動き
が見られ、一部では今年の地
金生産量が2000万トに達
するとの見方も出ている。こ
うした中、中国国内の地金価
格はロンドン金属取引所（L
ME）と比較して相対的に下
落気味だ。

他の主要国もおおむね需要
は堅調で、特に北米の回復が
進展している。

車需要がけん引 2500—2700ドル

アルミ

アルミ相場は2500—2
700ドルと予測する。内需は
自動車・住宅ともに回復基調
だったが、ピーク時の7—8
割程度と依然厳しかった。さ
らに震災による国内生産への
影響で、3月の自動車生産が
半減予測と計り知れないもの
がある。

しかし、世界的に自動車産
業を見れば、昨年度の中国の
販売台数は1806万台（対
前年比30%増）で、米国は1
158万台（同10%増）と堅
調だった。日本の販売台数で
ある496万台が半減してい
ても、米国や中国の経済成長予
測を加味すれば十分補える。
自動車生産は、日本製部品に
よる依存度が低く、あつたと
しても一時的で他国の代替生
産により数カ月で解決できる
だろう。以上を踏まえると、
昨年度水準の生産、販売は行
える。

住宅関連は短期的には仮設
住宅、長期的には復興需要と
息の長い需要が期待できる。
震災による一時的な下落はあ
っても底堅く、価格は堅調に
推移する。

橋本アルミ取締役
橋本 健一郎氏

アルミ 2500ドル底に実需盛んで上値余地

ユタカ社長
豊川 欽熙氏

4—9月のロンドン金属取
引所（LME）アルミ相場は
トン2700—2800ドルの
レンジに収まるだろう。アル
ミ在庫は460万トまで積み
上がっているが、現在の相場
は在庫状況に関係なく変動し
ている。

今年度は、中国の自動車販
売台数が2000万台に達す
るとの予測もあり、前年同様
に新興国がアルミ需要をけん
引する。投機環境だけでなく
実需が旺盛なため2500ド
ルが底。また、銅相場の上伸幅
に比べて、アルミ相場は上が
りきっていない。上値を伸ば
す可能性が非常に高い。

東日本大震災の影響で日本
経済は急に停滞してしまった
が、インフラの整備さえ進め
ば国内でもアルミ需要は回復
する。

スクラップ相場に関して
は、自動車メーカーの生産見
通しが不透明なため、4月は
二次合金メーカー向けは横ば
いの線が強い。相場が動くの
は5月以降か。軽圧向けはす
でに復興需要が堅調で63Sの
引き合いが強い。今後上値
を伸ばすだろう。

投機流入増え2400—2800ドル

アルミ

4—9月のアルミ地金相場
はトン2400—2800ドル
を予想する。他の非鉄金属と
比較しアルミは出遅れ感があ
り、投機資金の流入増が相場
を押し上げる可能性が高い。
下値は欧州の電力コスト高を
踏まえると限定的とみる。

需要に目を向ければ、中国、
欧州、北米の主要国は底堅く、
新興国も好調を維持する見通
しで、ファンダメンタルズは
悪くない。
日本は震災復興に伴う建材
などインフラ向けの需要増加
と、自動車メーカーの一刻も
早い本格的な生産再開が待た
れる。

アルミ原料は震災直後にメ
ーカーの購買ストップを受け
て荷動きが停止した。業界内
では当面の売れ行きを不安視
する向きが増えている。

今後の需要動向は二次合
金、軽圧メーカーの生産いか
んだらう。一方、供給面は製造
業の減産に伴い工場発生が落
ち込んでおり、東北からの出
荷も停滞したままで流通量は
細まっている。こうした状況が
長期化すれば関係業者の収益
悪化は避けられないだろう。

岡村金属社長
岡村 晋吾氏

アルミ 実需・投機支えに2500—2700ドル

木本商店社長
朴 柱亨氏

4—9月のLMEアルミ
は、足元のトン2600ドルを
中心値に、2500—2700
0ドルの間で推移。旺盛な実需
や投機筋の動きが相場を支
える。

需要面では、中国政府が進
める5カ年計画で、一般住宅
3600万户を新設する動き
があり、経済成長予測も7%
としている。自動車販売の好
調を加味すると見掛け以上の
需要がある。また、同国は節
電政策でアルミ精錬規模が縮
小しており、在庫量の減少で
需要はますます拡大傾向にあ
る。

投機面では、米国の金融緩
和政策が継続すれば、アルミ
にもさらに資金が流入する。
不安要素として中東情勢の悪
化などを発端とした原油価格
の高騰、欧州の金融問題など
が挙げられるが、これらは織
り込み済みだろう。

また、LMEカーブの推移
が銅相場の動きに似ているこ
とを踏まえると、今後は上げ
基調となる可能性が高い。先
行して上値を伸ばした銅に追
随して、アルミは出遅れを取
り戻す。